

# 福沢諭吉 フクザワ,ユキチ 1835 ~ 1901

明治期を代表する思想家・教育者の一人。慶應義塾の創始者。

天保6(1835)年、中津藩士の次男として大阪の中津藩蔵屋敷で生まれる。1歳で父を亡くしたため、母子ともに中津(現在の大阪府)に帰郷し、そこで幼少時代を過ごした。蘭学を志した彼は、安政元(1854)年、長崎に遊学する。翌年は大坂の緒方洪庵の適塾で学び、安政5(1858)年には中津藩の蘭学教師として江戸に上って、蘭学塾を開いた。この蘭学塾が現在の慶應義塾の始まりであって、慶應義塾という名称は、明治元(1868)年、築地鉄砲州から芝に移転した時につけられたものである。

蘭学を学び西洋の語学力と知識をたくわえた諭吉は、万延元(1860)年、遣米使節団の一行として咸臨丸に乗り込み初めて渡米、以後欧州各地を歴訪し、見聞を広めた。なお、欧州諸国で見聞した内容は、『西洋事情』でまとめられている。

諭吉は、明治維新を挟んだ激動の時代に生きた。そのため、彼の思想には、封建制度への反発や、洋学と数度にわたる渡欧による見聞が大きく影響している。人間が平等であること、個人と国家の独立の大切さ、個人の独立を支える実学の必要性などを唱えた彼は、文明・社会・学問・教育・男女や家族のあり方を論じ、『文明論之概略』『学問のすゝめ』といった多数の著作を残した。彼は当時の日本人に対して啓蒙や教育の実践を行い、明治34(1901)年、脳溢血により66歳で亡くなった。

## Great Books 56 学問のすゝめ(がくものすずめ)

本書は17編で構成され、「初編」は中津の学校開校に合わせた配布物として学問の趣意を記したもので、「二編」以降はその内容をより具体的に述べたものである。明治13(1880)年、合本としてまとめられたが、各編は順次書き継ぐ形で刊行されたため、全体は体系的な構成とはなっていない。

諭吉は、「五編」冒頭で「学問のすゝめはもと民間の読本又は小学の教授本に供へたるものなれば・・・勉めて俗語を用ひ文章を読み易くするを趣意と為したり」と書いた。できるだけ平易な表現で記述された本書は、合本の序に「日本の人口三千五百万に比例して、国民百六十名の中一名は必ず此書を読たる者なり」と書かれているとおり大ベストセラーとなって、当時の社会に大きな影響を与えた。

その内容は、「二編」端書に「此書の表題は学問のすゝめと名けたれども・・・一般に人の心得と為る可き事柄を挙て学問の大趣意を示したるものなり」とあるように、本来平等である人間が学ぶべき学問を問い、その到達すべき目標である独立した人間のあり方、さらに独立した人間と国家のあり方などを、例示を挙げて具体的に述べたものである。したがって、本書は「学問」だけではなく、文明論あるいは社会論とも読むことができる。

人間は生まれながらにして上下の別なく自由自在であり、学問を修め、いかに独立した人間として自立できるかによって評価されると説く諭吉は、この「自由自在」は「我儘」を指すのではないとして、「分限」を知ることの大切さを繰り返し述べる。彼はさらに、独立した国民があってはじめて独立した国家が生まれると主張し、日本国は世界の中で自主独立を守らなければならないとして、独立した国民を育成するために、算数・地理・物理・歴史・経済・法律など、実際の生活に役立つ「実学」を修めるよう説いた。なお、この「実学」の解釈については、丸山真男氏は『福沢に於ける「実学」の展開』(福沢諭吉集 筑摩書房 1975年刊)において、実業学としての功利精神と見るのではなく、学問と生活の結合、学問と生活とがいかなる仕方結びつけられるかという点に全く新しい学問観の提唱があるとしている。

## Key Word 独立自尊

天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、生れながら貴賤上下の差別なく、万物の霊たる身と心との働を以て天地の間にあるよろづの物を資り、以て衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨をなさずして各安楽に此世を渡らしめ給うの趣意なり。されども今広く此人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人もあり、下人もありて、其有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。其次第甚だ明なり。実語

教に、人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なりとあり。されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとに由て出来るものなり。

学問をするには分限を知る事肝要なり。人の天然生まれ附は、繋がれず縛られず、一人前の男は男、一人前の女は女にて、自由自在なる者なれども、唯自由自在とのみ唱へて分限を知らざれば我儘放蕩に陥ること多し。即ち其分限とは、天の道理に基き人の情に従い、他人の妨を為さずして我一身の自由を達することなり。

『福沢全集第3巻 国民図書 1926年刊』収録の「学問のすゝめ 初編」を底本とし、旧漢字を新漢字に改めた。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 学問のすゝめ / 福沢諭吉(著) 服部陽子(訳)  
創栄出版 1998年刊 192p <370/104> 資料番号 21273602
- 📖 学問のすゝめ(岩波文庫ワイド版) / 福沢諭吉(著)  
岩波書店 1994年刊 206p <370.4DD/584> 資料番号 20714887
- 📖 近代日本思想体系2 福沢諭吉集 / 福沢諭吉, 石田雄, 丸山真男(著)  
筑摩書房 1975年刊 614p <121/73/2> 資料番号 10194231
- 📖 日本の名著 33 福沢諭吉 / 永井道雄(編)  
中央公論社 1969年刊 510p <081.6/34/33> 資料番号 20716965
- 📖 福沢全集 第3巻 / 時事新報社(編)  
国民図書 1926年刊 729p <081.8/2/3> 資料番号 10153401

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 福澤諭吉著作集 全12巻  
慶應義塾大学出版会 2002~2003年刊 <081.6LL/148>  
\*現在刊行中
- 📖 福沢諭吉の哲学(岩波文庫) / 丸山真男(著)  
岩波書店 2001年刊 335p <1311/マ> 資料番号 21397682
- 📖 福沢諭吉の教育観 / 桑原三郎(著)  
慶應義塾大学出版会 2000年刊 326p <289.1JJ/3987> 資料番号 21316609
- 📖 福沢諭吉論の百年(Keio UP選書) / 西川俊作, 松崎欣一(編)  
慶應義塾大学出版会 1999年刊 320p <289.1HH/3765> 資料番号 21172556
- 📖 福沢諭吉(丸善ライブラリー) / 桑原三郎(著)  
丸善 1992年刊 225p <289.1AA/3075> 資料番号 20475752
- 📖 「学問のすゝめ」講説 / 伊藤正雄(著)  
風間書房 1968年刊 695p <370.4/116> 資料番号 11076692
- 📖 福沢諭吉(岩波新書) / 小泉信三(著)  
岩波書店 1966年刊 5, 209p <289.1/900> 資料番号 10528883